

# 全運協 代行料金メーター開発

## JIS準拠 三和メーターと共同で

全国運転代行協会(丹澤忠義会長)は三和メーター(東京・目黒区)と共同で

運転代行料金メーター「Siriuss1」を開発し、会員事業者に向け、あっせん販売に乗り出した。代行サービスのノウハウを提供したため、多様な料金が設定できる。JIS(日本工業規格)に準拠した初の専用メーターといい、注目されそうだ。

国土交通省の利用者保護策で、料金メーターの規格化を関係機関に働きかける方針が示されていた。JIS

Sに準拠するのは「距離」「時間」「時間距離併用」。設置は義務化されていないが、料金を明確にでき、お客とのトラブルを防げる



料金メーターのデモ機を持つ霜鳥理事(3日)

と強調している。

会員事業者への販売価格は9万5000円(税別)。先行して沖縄県支部が、米軍基地内へ入構する随伴車に取り付けている。

フルカラー液晶で、三和メーターとしては初のプリンター一体型。本体のテンキーボタンで追加料金が入力でき、SDカードを使えば設定変更が可能。オプションの外部表示器で金額や社名を映し出せる。随伴車に多い軽自動車の取り付けに適した電圧や配線を採用した。

三和メーターの白澤徹企画部長は「料金の適正收受につながる。全国の随伴車数の1割に当たる3000台に普及すれば」と意気込む。